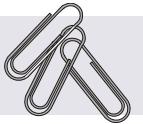


調査研究



リニア時代の名古屋の都市戦略（スーパー・メガリージョン研究会）

2027年開業予定のリニア中央新幹線によって形成される「スーパー・メガリージョン」は、世界を先導する経済・文化・交流の一大拠点圏域へと変貌する可能性を秘めています。国土形成計画（広域地方計画）では、中部圏は「スーパー・メガリージョンのセンター、わが国の成長を牽引」する圏域として、確固たる位置づけがなされている中で、この世界最大となるメガリージョンの形成が、我が国の国土構造や各圏域に、どのような変革をもたらし、どのような意義を持つのか、様々な視点から議論がされ、その効果や価値を共有する必要があります。

スーパー・メガリージョンの効果を最大限に発揮するために、2027年にはリニア圏域の西の玄関口となる名古屋圏から、その意義や共有すべきビジョン、果たすべき役割、その実現のためのハード・ソフトにわたる都市戦略を、今こそ発信していくべき時です。

中部圏（名古屋圏）が魅力的な国土形成に大きく寄与していくため、平成26年11月より15回にわたりてスーパー・メガリージョン研究会（座長：奥野信宏氏（中京大学理事・学術顧問））を開催し、議論を重ね、その成果を「リニア時代の名古屋の都市戦略」としてとりまとめました。

（1）スーパー・メガリージョン（SMR）の意義

SMRとは三大都市圏等が一体化し6,000万人交流圏を形成していく概念です。その人口と経済規模で見れば、世界最大の広域経済圏の誕生となります。そして、規模だけではなくSMR誕生の意義は多様であり、三大都市圏がその機能を相互補完すれば日本の成長エンジンとしてのパワーが強まり、東京に全てを依存する一極集中を是正すべく「人口増の極」が生まれることなどが期待されます。

SMRの実現により、6,000万人の世界最大の広域経済圏となり、①交流の濃密化、②東京一極集中の是正、③日本の成長エンジンの形成、④レジリエンスの確保が図られます。

SMRを象徴するキーワードとして、

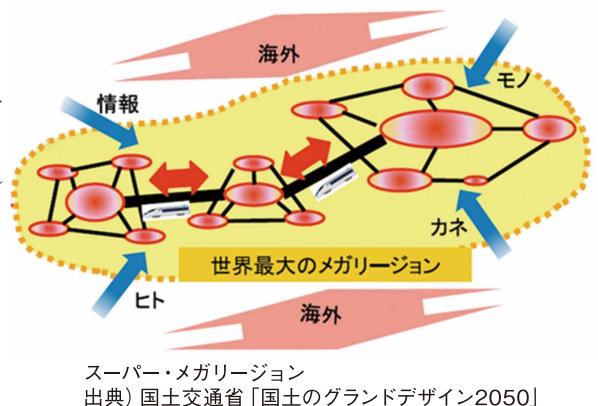
Sシームレス、**M**マルチ・ダイバーシティ、**R**レジリエンスがあげられ、それぞれ、三大都市圏間だけでなく、各圏域の移動をストレスフリーにし、各都市圏が有する特質を生かし多様性を顕著に発揮し、多重構造の一翼を担うことでしなやかな国土に貢献することで、SMRの役割を最大限に発揮することができます。

また、大阪－名古屋と名古屋－東京の所要時間は概ね1:2でしたが、2027年のリニア開業時には、50分:40分となり、日本の有史以来初めて逆転することとなり、名古屋にとって大きな契機となることが期待されます。

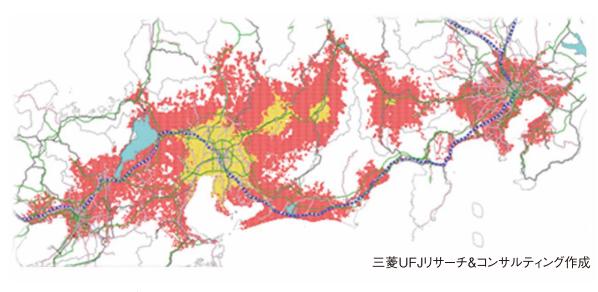
名古屋駅から2時間以内で移動できる圏域の人口は5,949万人となり、品川駅起点の5,217万人を上回り、名古屋が最大の交流拠点となります。

（2）名古屋圏を取り巻く状況

名古屋圏の現在の状況を分析してみると、モノづくり産業や暮らしやすさなどの強みがある一方、発信力や国際交流などには、課題もあります。今後、豊富なポテンシャルやチャンスを活かしていくことが重要となります。



大阪－名古屋、名古屋－東京間の所要時間



強み	弱み	機会	脅威
<ul style="list-style-type: none"> ●交通利便性 ●モノづくり産業 ●暮らしやすさ（地価・ゆとり） ●都市基盤 	<ul style="list-style-type: none"> ●都市魅力（文化・交流） ●発信力 ●国際交流・インバウンド 	<ul style="list-style-type: none"> ●2027年 リニア開通 ●ICTの進展（自動運転、AI等） ●大交流時代（インバウンド増加） ●健康長寿 	<ul style="list-style-type: none"> ●更なる東京一極集中の懸念（女性、若者の流出） ●意識（豊か、三男坊）

名古屋圏のSWOT分析

(3) SMR時代の名古屋圏が果たすべき役割

- 名古屋圏は今後、SMRの要の地域として、次の3つの役割が期待されます。
- ①「Heartland of JAPAN」として、地勢的な中心であり、東西日本の原風景や文化が濃縮された地域
 - ②「知力・産業力の牽引役」であり、日本の技術センター
 - ③「トランジットハブ&リージョナルハブ」として、交通中心（トランジットハブ）に加え、産業だけではなく多様な機能としての質量を高める地域経済拠点（リージョナルハブ）

(4) リニアキャピタルNAGOYAの実現

名古屋圏は、日本経済を牽引する知力・産業力とともに、東西日本文化の潮目の地域としての中心性とゆとりも有しており、ここに「リニア」という時代変化の加速装置が加わることで、三大都市圏間の連携が濃密化し世界とのつながりも加速することとなります。このリニア時代の到来とともに、名古屋は日本の心臓部となり、世界潮流の十字路として大交流の主要舞台となっていきます。

「リニアキャピタルNAGOYA」とは、SMRの要の地域にふさわしいハブ構造を形成するとともに、日本の心臓部として国内および世界との交流の舞台となり、その結果、世界の潮流がぶつかりあう十字路として発展していくことを意味しており、この新しい名古屋圏の姿を実現していくことが必要です。

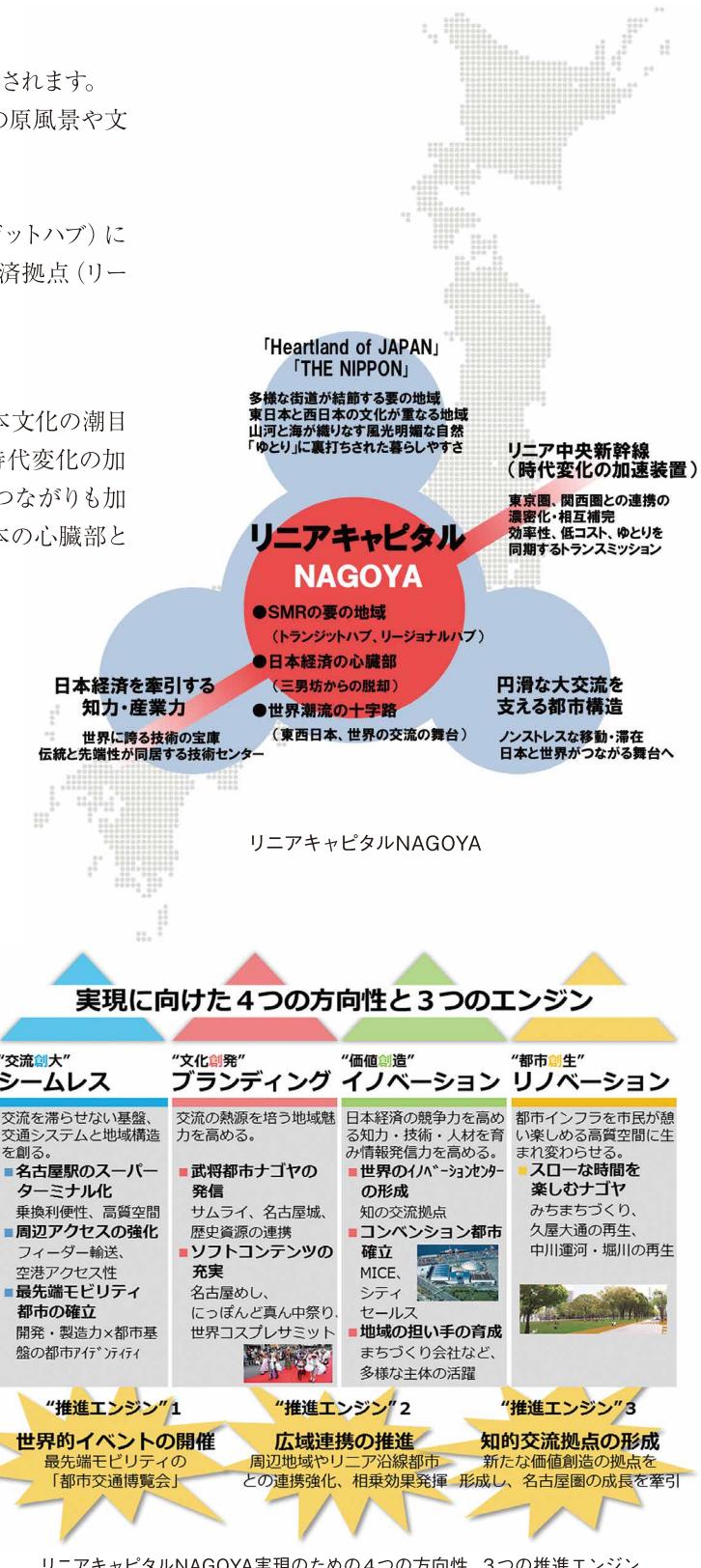
リニアキャピタルNAGOYAの実現のためには、次の4つの方向性が重要となります。

- ①「“交流創大” シームレス」交流を滞らせない基盤、交通システムと地域構造
- ②「“文化創発” ブランディング」交流の熱源を培う地域魅力
- ③「“価値創造” イノベーション」日本経済の競争力を高める知力・技術・人材の育みと情報発信力の強化
- ④「“都市創生” リノベーション」名古屋の豊かな都市基盤を活かしながら、人を呼び込み、人に選ばれる都市の創生

また、リニアキャピタル構想を推進していくために、次の3つのエンジンを提案します。

- ①世界的イベントの開催「都市交通博覧会」
- ②広域連携の推進「リニア(沿線都市)サミット」
- ③知的交流拠点の形成「名古屋モノづくりキャピタル」

この報告書が、来たるリニア時代の名古屋のまちづくりに向けて、よりよいスタートを切るための一助となることを期待しています。



名古屋都市センターウェブサイト (<http://www.nup.or.jp/nui/investigation/result.html>) では、報告書本編の全文、資料編を掲載しています。

本報告書では、リニア中央新幹線開通後の2030年、ビジネスや生活の場において、名古屋ではどんなものがたりがおきるか「リニアものがたりNAGOYA2030」として、5つのエピソードを掲載していますので、ぜひご覧ください。

- Episode 1 「本社移転を決意した外資系ITの日本現法社長… 親会社を口説けるか?」
- Episode 2 「新進気鋭のHeartful Interface Productデザイナー、名古屋から世界を目指す!」
- Episode 3 「名古屋で咲かず第二の人生!」
- Episode 4 「タイ人大学生、念願のモビリティ博覧会に参加!」
- Episode 5 「リニア沿線同窓会枝垂れ桜揺れる飯田の夜」